

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	実践につなげている。 みどり合同会議、1F会議、2F会議、カンファレンスや申し送りを通して、法人の理念やGH運営の基本方針を確認し、サービス提供を実施している会議記録として残し、重要事項を全職員で共有している。	1Fも2Fも事務所の壁に理念や基本方針が貼ってあり、職員会やカンファレンスの機会を捉えて復唱し職員間で共有している。	法人理念を作成した時の経緯や意図、解釈などを理事長から直接伺う研修機会を設けることにより、さらに具体的な実践の場で目指すところを明らかにすることや評価の視点などの指標に繋がると思われます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	地域においては消防避難訓練を実施。 新型コロナウイルス・インフルエンザ流行の為、地域を招き活動は以前より行うのが難しい状況。今後、区民による歌舞伎や小学校の音楽会・保育園の運動会、お正月には地域の獅子舞、地域住民や自治会長、民生委員を招いての夏祭り(納涼祭)を実施を予定している。	新型コロナウイルスが五類移行後、予定されていた地域との行事や交流が最近の新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染状況を踏まえ、途絶えたままの状況が続いています。	開所時から、コロナ禍にあった事業所のため、本来のグループホームサービスである地域密着の意義が活かされないまま過ぎていていると感じます。感染予防に十分配慮することや工夫する事により地域との繋がりを作っていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	活かしている。 区の自治会長・民生委員・消防部長などに運営に関して会議・資料交換を行い、現状報告・問題などを提起してお互い意見交換をし、地域貢献を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	協力関係を築くように取り組んでいる。 申請書郵送のみ行うのではなく、窓口に行き、挨拶・現状報告等、相互にコミュニケーションを図っている。行政主催の集まりにも参加して連携を図っている。 ご利用者様の入居希望相談など、相互に情報を共有し、より良い関係性を築いている。	コロナ禍により、運営推進会議は、集合開催されず書面で実施されています。郵送することなく、直接持参や事後にご意見等をアンケート用紙でいただく等の工夫をされています。	今後、運営推進会議の集合開催により、行政・自治会長・消防等との連携や協力がさらに進むと考えられます。介護教室等を通して施設の持っている専門性を地域に還元する事や地域との行事開催や災害時の相互協力・防災訓練等について、運営推進会議の活用を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	協力関係を築くように取り組んでいる。 申請書郵送に頼らず、上田市役所窓口に行き、コミュニケーションを図っている。行政主催の集まりにも参加して連携を図っている。 担当者とは相談窓口を通じ、関係性を築けている。	管理者が機会あるごとに市役所の窓口を訪れ、相談や指導・協力を求める等のコミュニケーションや連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる。 2か月に一度、法人として全体研修があり、職員は身体拘束についての理解ができており、身体拘束をしないケアを行っている。 事業所会議では身体拘束マニュアルを常時、確認し、全職員認識できるよう行っている。	・開所以降、身体拘束を実施したことは無い。 ・今後やむを得ない場合で実施する事があっても、実施や説明・同意に関する事項についての記録の様式とマニュアルが整備されている。 ・身体拘束委員会については、本部に設置され、管理者が出席している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	取り組んでいる。 2か月に一度、法人として全体研修があり、職員の理解ができています。 事業所会議では虐待防止マニュアルを常時、確認し、全職員認識できるよう行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	活用出来るように支援している。 この地域は社協が窓口になっており、独居のお年寄りが将来財産上の問題が浮上、予想される場合には相談をしており、また本人が希望した場合などは司法書士などに関わって頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い、理解・納得を得ている。入所時・解約時・改定時などには十分な説明を行っている。特に金銭的なことについては(介護保険料金改訂など)、トラブルを回避するため、利用者家族から承諾書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常日頃意見を言えるように、玄関に意見箱を設置したり、面会・電話での要望に常時進言できる体制築いている。また運営推進会議に利用者家族参加、新型コロナウイルス流行防止の為、事業所行事にはご家族様参加が安易には行えないが、今後、納涼祭やクリスマス会を開催して職員・家族同士の話し合いの場を設ける予定。	開所からコロナ禍であり、現在も窓越し面会が継続されている。意見箱の設置等で利用者や家族の要望を聞いている。また、お便りや電話等を通して近況報告がされている。	入所時から居室に入ったことも無く、どんな生活をしているのか不安を抱え、手をとり合って話をする日が来るのを心待ちにされているのが家族の当たり前の感情と考えます。新型コロナの五類移行を期に、まず家族の面会を検討される事を望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	反映させている。 月1回の合同ミーティング・各グループホームのミーティングにおいて、職員の意見・要望を聞く機会を設けている。	月1回開催されている職員会議等を通して職員からの意見を収集している。必要な職員から〇〇した方が良いのではないかとという提案については、管理者が本部に報告している。 賞与の前に自己評価について、面談が実施される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めている。 年2回の評価表を実施しており、給与・賞与に反映し、労働条件については職場環境・個人の休暇の希望を取り入れ職員の要望に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員を育てる取り組みをしている。 法人内で2か月に1回の研修会を設けている。また介護技術向上のための研修会もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	取り組みをしている。 行政主催の集まりなどに参加したり、職種に応じた研修会や勉強会に参加して、サービスの質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	努めている。 家族・本人から可能な限り、今までの生活や、育ってきた環境などについてお聞きし、要望に沿うよう介護計画やケアに活かしている。施設で楽しく、穏やかに生活できるように交流機会を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	関係づくりに努めている。 入所する前にご家族からの要望などお聞きしている。また、入所後も定期的に連絡を取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている。 入所時にご本人及びご家族からの要望などお聞きし、介護計画の作成やサービス提供に努めている。また、他の方法もあることなども含め提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	関係を築いている。 職員は利用者本人のADLに応じて、お茶配り・配膳・食器拭き・洗濯物たたみなど一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	築いている。 面会や電話などでご本人の状況などお話しさせていただいている。また、外出・外泊の機会を確保させていただいている。 (新型コロナウイルス流行防止の為、慎重に行っている)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	支援に努めている。 近所の方が見えたり、家族の面会など、常時対応している。面会規制はしていない。 (ご利用者様の様子・状況を確認の上、実施)	窓越しではあるが、面会の人数制限をしていないため、家族が友人等を一緒に連れてきてくれている。特に正月等は、大人数での面会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	支援に努めている。 レクリエーションや行事では、それぞれの方が出来る事を提案して実施している。利用者同士の交流では職員が仲介したり、声掛けをして間に入り支援している。またボランティアが来所されるときには、全員が参加できるように声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談や支援に努めている。 退所して、同法人内の施設に移られても、相談を受けたり、経過を見守っている。また、ご自宅に戻られても関係機関やご家族、ご本人と連絡調整など行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。入所時に家族・本人の希望をお聞きして記録表に記入している。また、好きなこと・嫌いなこと、また趣味なども把握して、一人一人の暮らしの中での経験を日々の生活の中に活かすよう取り組んでいる。	入所時に家族から生活歴や嗜好・嫌いな事・こういう事をすると喜ぶ・趣味・希望や意向等を聞き取り、記録表に記している。 計画のアセスメントとして反映する他、日々の生活のリズムに取り入れている。 電話での聞き取りも行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	努めている。 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方などについては入所時に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	努めている。 一人ひとりの状況について、業務日誌・日課記録表により現状把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	作成している 本人や家族の希望などをお聞きしてプランに反映している。必要な関係機関とも話し合い意見をお聞きしている。また、GH会議などでも検討して、反映している。	1Fも2Fも1カ月に一度の職員会議でカンファレンスを行い、計画を立案・修正を行っている。 特にアセスメント表については、担当が気になる点などを記載し、話し合っている。 モニタリングについては、介護度や状況の変わった時のほか、定期的に3カ月に一度の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活かしている。 業務日誌や個人経過記録に記入している。また職員の申し送りノートで情報の共有を図っているし、必要があれば介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	取り組んでいる。 家族や利用者様の相談に応じ、要望や要求に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	支援している。 地域とのかかわりを大切に、小学校の運動会や音楽会への参加など行っている (現在、新型コロナウイルス流行防止の為、行事参加を慎重に行っている)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	支援している。 主治医は法人内の診療所になっており、容易に診てもらえる。定期以外の臨時の受診は家族に様態・状況を説明して納得を得られている。受診表を提出して、即対応されている。他医院の受診もある。	入所前のかかりつけ医から、法人診療所医師に変更する同意がある方について、法人診療所の内科医師が毎月往診している。また、法人内の歯科も毎月診察を行い、歯科衛生士による指導も行われている。口腔機能向上加算を算定している。訪問看護の他に法人から毎日看護師が来所し、健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	支援している。 みどり看護師・法人内の訪問看護、病棟看護師、ハーモニック東部看護師と連携を図り、常日頃相談して、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりを行っている。 病院に入院した際にはサマリーにて、こちらの情報を提供して、入院中においては、ムンテラなどに参加させてもらい、常に情報を共有できるように努めている。そして早期に退院できるように相談もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	取り組んでいる。 入所時に急変した場合、重度化した場合、この施設で可能な医療・介護などの内容について、十分説明をし、理解を得ている。他院に移る場合などは家族・本人に希望を聞き、家族が選んでいただくようにしている。	開所から看取りは無かったが、重度化した場合は、本人や家族の意向を聞いて対応する体制がある。 施設変更を希望される方については、施設で対応可能な医療や介護について、十分な説明を行う事や法人内の老健や病院との連携を図る体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	実践力を身に付けている。 法人全体での研修会などで訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	協力体制を築いている。 スプリンクラー、火災通報装置が設置されており、防災訓練も年2回実施している。(なるべく全職員参加) 区の役員や消防団も参加している。	BCPIについては、法人内で策定中である。 防災訓練は、年2回実施している。防災設備についても新設施設のため整備されている。	防災訓練について、コロナ禍のため地域の方との相互支援や消防署の立ち合いは、計画はされていたものの実施に至らなかった。今後は夜間訓練も含め運営推進会議において協力体制を構築し、協働して実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応している。 言葉がけには細心の注意を払っており、また、入浴時や排泄時には露出部分が極力少ないように配慮している。 入浴は必ずご利用者様一人のみ対応。	入浴時や排せつ介助時等は、プライバシーへの配慮を特に気にかけて行っている。具体的には、入浴は、一人づつ対応する事や声がけ等について、尊厳を保持する様にしている。また、トイレが重なった時等は、他のトイレをご案内する等職員が適切な介助をする様にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働きかけている。 職員サイドで決めるのではなく、できるだけ本人が決定できるように、選択肢ができるような質問をするなど心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望に沿って支援している。 起床時間や食事時間などその人のペースに合わせて過ごしていただくよう支援している。実際に遅い食事時間の方や早い食事時間の方もおられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援している。 家族から衣類をお預かりし、週2回の入浴後本人と相談して衣類を選んでいる。2か月に1度美容師が訪問して利用者の要望に応じている。その方によっては、地域の理髪店に行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	支援している。 ご利用者様の状態に適した食形態を提案している。(ミキサー・刻み食等)またそれぞれの能力に応じて役割分担している。食事準備や食器拭き、簡単な調理などやっていたい。	業者から湯せん食を購入し、食形態も含め、3食・行事食についても提供している。 ユニットにおいて、ご飯と味噌汁は調理を行っているため、利用者はその簡単な調理や片付け等を一緒に行ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	支援している。 食事摂取量や水分摂取量については毎回記録している。脱水にならないように気を付けている。また、法人の管理栄養士との連携がとれている 現在、食事はクックチル対応		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	している。毎食後口腔ケアを行っており、就寝の際には義歯の洗浄を行っている 法人内の歯科衛生士が1～2週間に往診に来ていただいている。(口腔ケア・義歯調整など)		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	支援を行っている。常に排泄チェック表をつけており、そのかたにあった排泄方法に努めている。できる限り、トイレで排泄できるようにしている。立ち上がり不安定な方は職員協力し、安全第一にトイレ介助を行っている。足腰の筋力が低下しないよう配慮している。	排せつパターンは、タブレットを活用し把握に努め、できる限りトイレでの排せつが自立できる様に支援している。またトイレでの立ち上がり時の転倒防止について職員が協力しあって介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	取り組んでいる。 排便の周期のチェックをし、水分摂取を促したり、運動を進めたり、便秘にならないようにしている。便秘傾向の人には主治医に薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	個々に沿った支援をしている。現在曜日での入浴になっているが、入りたくない方は時間帯をずらしたり別の日に入って頂くよう対応している。なるべくご利用者の希望に添った日常を送って頂いている。	入浴は、1Fに個浴とチェアー浴、2Fに個浴があり、利用者は年間を通して、基本的には、曜日毎、週2回の入浴を行っているが、希望を聞き無理強いほしない様になっている。順番や曜日を考慮したり、時間をおいてから誘導する等している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	支援している。 利用者それぞれの生活パターンを全職員は理解できており、休みたい時などは、自室に誘導したりホールソファー等で休んでいただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	確認に努めている。 それぞれの利用者が服用されている薬については、薬情を称津診療所からいただいております。職員は把握している。服薬に関しては職員が管理して、飲むまでの確認は常に行っている。状態変化時は主治医に相談し支持を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	支援している。 入所時やその後のカンファレンスや日々のお話の中で合った役割、趣味嗜好を把握している。その方の能力にあった役割分担をしており、本人の希望に沿って献立を変更したり、戸外活動を行ったり、好きなことをして頂いて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、新型コロナウイルス・インフルエンザ感染防止の為、外出を慎重に行っている。(別病院の受診等) 今後、外出規制が緩和した際には地域行事に参加したり、外出に出かけたり気分転換を図れるよう行っていきたい。	コロナ禍により、受診等限られた場合以外は、ほとんど外出の機会がなかった。五類移行後も、新型コロナやインフルエンザの感染状況により、外出や地域交流等がされていない。	認知症を有する方にとって、季節や街の様子等を五感で感じとる事は大切な事です。新型コロナ五類移行後も、外出する事はほとんどありませんが、感染予防に充分配慮した上で、家族や地域との交流、外出支援を工夫して実施する事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支援している。 それぞれの利用者の状況に応じ、家族との話し合いでわずかな金額を預かったりして、本人の希望・要望に沿って対応している。また、本人自身が所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	支援している。 入居様が家族や知人などに連絡したい時は電話にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫している。 日頃から施設内であると、季節感に疎くってしまう傾向がある為、月ごとのカレンダーづくりや季節に応じての外出を行っている。(去年、ウッドデッキを設置。外の空気・紅葉を見て楽しめるよう環境を整えた) また、毎日ラジオ体操を行い、廊下を歩行訓練の場として行ったりして居心地良く生活できるように工夫している。	食堂の壁には、おひな様のタペストリーが飾られ季節を感じられる工夫が見られました。 特に本年は、ウッドデッキが作られ、暖かくなったら、それを活用して庭に草花を利用者と一緒に植えて眺めたいと伺いました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	工夫している。 ホール・居室では気の合った者同士でテレビを見たり、みんなでゲームをしたり、また、一人で新聞を読んだり、思い思いに過ごしていただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫している。 今まで生活されてきた背景を考慮して、馴染みの物をお持ちいただくようにしており、人によっては遺影や仏壇を居室に持参されている。本人の希望を添えるようにしている。	居室にテレビを持ち込み他の利用者を招いて、お二人で仲良くテレビを見て談笑される姿や廊下を手をつないで歩かれる姿を目にしました。コロナ禍で、家族との交流もできない状況でしたが、利用者間の関係性を大切に支援していることが伺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	工夫している。 利用者各々がこの施設での生活が安全に安心して暮らせるように、廊下には障害になるものは置かないようにして安全性を確保している。また、居室やトイレの場所などが分からない方のために案内板を設置して、一人で行動できるようにしている。		